

証言 - 1978年 ドズレのカルバリ

「私達(夫と私)はマドレーヌが恍惚状態にあった現場にしばしば居合わせました。マドレーヌが『光が』、と言った瞬間に私達の心の一番奥深いところに、目に見えない存在を感じた、と断言できます。私は自分の目では何も見ませんでしたが、もっと深く私達の魂で見えていたと言えると思います。人間の言葉では言い表すことが出来ません。もはや時計がなくなってしまったような感覚でした。時もなく、もはや何も求めるものもなく、欲するものもなく、満たされていました。マドレーヌが言う言葉を私達ははっきりと聞きました。それらの言葉は私達の一番奥深いところに焼き付けられ、今も心に刻み付けられています。そのような言葉を私達は聞いていたのですが、その後この忘れ得ない祝福の時の後に何よりも辛いのは元の世界に戻ることに、時の刻まれる世界に戻り、聖体顕示台上のイエスはもはや同様のものではないことに気づくことです。私達はイエスがそこに居られ、私達をご覧になり、私達を愛しておられ、私達が主に赦しを求めることを望んでおられると考えることが出来ます。なぜならその慈悲を持って主は私達をお赦しになりたいからです。もしもこのような意識を持って十字架に近づくならば、神と私達の魂との間に何かが通い、十字架のある丘から降りる時にはもはや私達は登ってきた時と同じではありえないのです。私達の中で何かが起こったのです。ある日、私はひどい苦しみを感しました。マドレーヌの恍惚状態が終わった後、私は泣き崩れました。私は一晩中止むことなく泣き続けていました。夫も同様の苦しみを味わっていました。このような状態の中で、私は言いました。『主よ、私はあなたがマドレーヌに口述なさった祈りを毎日唱えに行くことをあなたにお約束いたします。あなたが私に力と健康を与えてくださる限り。』1981年の聖霊降臨(ペンテコステ)の日に、私達は教会に向かいました。なぜなら十字架が現れた場所は個人の所有地だったからです。私達は祈りました。そして教会から出たとき、わが神よ! なんという自由が私達の意識の中にあったことか。私の心は喜びに溢れていました。この感情を説明する言葉が見当たりません。翌日私達は再び教会へ行き、8ヶ月間夫と私とで祈り続けました。ある日曜日、私達が大きな声で祈り始めたとき、7人の人が来て、さらに4人が加わりました。全部で13人になりました。その日以来、私と夫が二人きりで祈る、という事は決してありません。土曜日と日曜日には、私達は十字架への道

中にある垣根の裏に行きました。それから、私達は十字架が現れた場所に行けないことを辛く感じるようになりました。私達は司祭に会いに行き、毎週土曜日に聖なるミサの9日間祈禱をするように頼みました。彼はその願いを聞き入れてくれ、私達はこの9週間の間、十字架の現れた場所へ行ける恵みが与えられることを求めて、毎日ロザリオの祈り一環を付け加えることを約束しました。そしてこの9週間のうちに所有者は土地を売り、私達は中に入れるようになったのです。そこで私達は垣根を取り払い恵みに感謝するため聖母マリア像を置きました。なぜなら私達のはじめて中に入れた日は1982年9月19日、サレットの聖母の日だったからです。それ以来10年以上の間毎日私達は恵みへの感謝の気持ちをこめてロザリオの祈り一環を付け加えて祈っています。1年間、私達は毎日悔い改めと十字架建立のため祈りに来ました。それから、私達は再び司祭に会いに行き、清めの池が開かれることを願って2回目の9日間祈禱ミサを行うよう頼みました。彼は予定より少し遅れた日程を示し、もう一人の司祭も『私も私の小教区で行いましょう』と言ってくれました。約束の日が来て、5日目、私達はローマ法王の聴罪司祭、グレコ神父からローマへ来るようにとの電報を受け取りました。ローマへ呼ばれた日は、金曜日で、2人の司祭により行われた9日間祈禱ミサの最後の日でした。グレコ神父は私達を金曜日に3時間、土曜日に1時間半、日曜日の朝に1時間15分にわたって迎え(1)最後にこう言われました。『あなた方に2つのことを依頼します。このメッセージを告げ知らせること、および決して祈りを辞めないこと。』神はその大いなる愛によって私達に必要なもの全てを与えてくださいました。私達は十字架が現れたあの場所へいつでも自由に行って悔い改め、身を清めることが出来るのです。」

ルイ・アヴォワンヌ/スザンヌ・アヴォワンヌ

(1) ローマへ行った一行全と、最後の日には2人だけ

お知らせ: 主の訪れの際に同席し、メッセージの伝播に携わっている人々への連絡先は、
電話番号 + 33.2.31.79.27.46 (フランス)

